

平成27年度研究成果中間報告書《平成27年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	1	都道府県・ 指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	3(4) 高等学校
				領域名	E S D
研究課題	<p>学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>(4) E S Dを学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p>				
学校名 (児童・生徒数)	<small>ふりがな</small> 北海道斜里高等学校 (206人) <small>ほっかいどうしやりこうとうがっこう</small>				
所在地 (電話番号)	〒099-4116 北海道斜里郡斜里町文光町5番地1 (0152-23-2145)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.shari.hokkaido-c.ed.jp				
研究のキーワード	世界自然遺産・知床，総合学科教育，キャリア教育，地域の教育力の活用，学校の教育力の向上				
研究成果のポイント	<p>○【中心的な取組】：「世界自然遺産・知床」等，地域をフィールドとしたE S D活動（環境・地域学習）の実践における取組の検証，改善・充実</p> <p>○【中心的な取組】における生徒の変容を把握する評価方法（1枚ポートフォリオ）の導入</p> <p>○【波及1】：総合学科教育活動・キャリア教育の改善・充実（E S Dに位置付けての実践）</p> <p>○【波及2】：各教科・科目，特別活動等へのE S Dの波及</p> <p>○【波及3】：課外活動等へのE S Dの波及</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

「世界自然遺産・知床」等，地域をフィールドとしたE S D活動の改善・充実，及び学校の教育活動全体へのE S Dの波及 ～ E S Dによる，地域に誇りを持ち，地域の持続発展に貢献できる人材の育成 ～

(2) 研究主題設定の理由

ア 生徒（子供たち）に関わる現状と課題

学校のある斜里町は「世界自然遺産・知床」を擁する豊かな自然環境に恵まれた土地である。また，オホーツク海の豊かな水産資源の恩恵を受けた漁業と斜里平野での大規模畑作農業を展開する第一次産業の基地としても重要な地域である。

本校の生徒は，ほとんどが斜里町からの入学生であるが，豊かな自然環境や歴史・文化，豊穡の大地の中で育ってきているものの，あまりにも身近にありすぎるため，それらの希少性・重要性への気付きや，持続発展させていく責任の認識が不十分である。また，限定的な生育環境や交友関係から，自ら考え，学び，伝え，行動する積極性や地域の魅力等に誇りを持って発信する気概，表現する能力等にも課題が見られる。

イ 本校におけるこれまでの取組

本校では，平成16年度の総合学科への学科転換を機に，地域の豊かな自然を教材とした特色ある教育活動として学校設定科目「知床自然概論」を設定し，「知床」が世界自然遺産に登録された平成17年度から授業を開始した。その後，特別活動として「知床自然体験学

習」と「史跡発掘体験学習」、地域産業と連携した商業科目「課題研究」等を導入し、地域の教育力を活用した地域理解を促す教育に取り組んでいる。

これらの実施に当たっては、総合学科学校設定科目「産業社会と人間」や総合的な学習の時間ともあわせて、報告会等の発表機会を取り入れ、自ら考え、学び、伝え、行動する積極性や表現する能力の育成等、課題の解決を目指している。平成23年1月には、これらの地域をフィールドとした実践によって、本校のユネスコスクール加盟が承認された。

ウ 研究主題設定の理由

本校においては、本研究指定校事業を通して、これまで実践してきた「世界自然遺産・知床」等、地域をフィールドとしたE S D活動を検証し、取組の改善・充実・持続発展を図るとともに、E S Dの理念を全教科・科目、特別活動、課外活動等へと波及させ、学校の教育活動全体を通して、生徒に関わる課題の解決に向けた実践を行うこととした。このようなことから、本研究指定校事業に係る本校の研究主題を「『世界自然遺産・知床』等、地域をフィールドとしたE S D活動の改善・充実、及び学校の教育活動全体へのE S Dの波及～E S Dによる、地域に誇りを持ち、地域の持続発展に貢献できる人材の育成～」とし、生徒に、地域の魅力等の気付きや、地域に誇りを持って情報発信する気概、自ら考え、学び、伝え、行動する積極性や表現する能力等を育み、魅力的な学校としての持続発展や、将来の地域を担い、地域を持続発展させる人材の育成へとつなげることを目的として実践研究を行うこととした。

(3) 研究体制

ア 校内における研究推進体制

(ア) 実践の推進組織（中心的な組織）【構成メンバー】

①ユネスコ活動推進委員会【教頭、教務主任、進路指導主事、理科主任、地理歴史・公民科主任】

②ユネスコ活動推進委員会拡大委員会【必要に応じて、①の委員+関係教科主任等】

(イ) 各分掌及び教科・科目等の取組推進に係る教職員の組織【構成メンバー】

①校務運営会議【管理職、各分掌部長、各年次主任】

②職員会議【管理職、教職員、行政職員(事務主任)】

イ 関係機関等との連携（研究推進に関わる外部からの支援）

(ア) 教育関係機関

①北海道教育委員会(オホーツク教育局等)、斜里町教育委員会、斜里町内小中学校、等

②斜里町立知床博物館、知床財団、知床森林生態系保全センター、等

(イ) 大学

北海道教育大学釧路校(E S D推進センター)、札幌国際大学、東京農業大学、等

(ウ) ユネスコ関係

知床ユネスコ協会、北海道ユネスコ連絡協議会、等

(4) 1年間の主な取組

平成27年度	〔4月～9月の取組〕
	ア 管理職の取組
	イ ユネスコ活動推進委員会等の取組
	ウ 教職員の取組
	エ 生徒の取組

〔4月～9月の取組〕

ア 管理職の取組

- ・学校経営シラバスへのE S D活動推進の明記(項目立)
- ・研究指定校事業連絡協議等での収集、情報の教職員への周知

イ ユネスコ活動推進委員会等の取組

- ・目標(生徒に身に付けさせたい力等)検討、全体提示
- ・研究推進・評価(検証)方法等検討、E S D全体構造図・全体計画(案)作成の検討
- ・各教科・科目における取組指標作成、全体提示

ウ 教職員の取組

- ・校内研修会の実施(実践の方向性等の明確化)
- ・各教科・科目の教育活動開始、知床・産業系列関係科目の授業開始
- ・具体的取組の推進(中心的取組準備、工夫改善、実施、各教科・科目でのアプローチ)

エ 生徒の取組

- ・キャリア教育に関わる活動、生徒会活動、課外活動等における自主的な活動の推進

[10月～3月の取組]

ア ユネスコ活動推進委員会等の取組

- ・先進校視察による効果的な実践事例等の情報収集
- ・研究指定校事研究協議会出席，成果の教職員周知
- ・成果報告書（中間報告）の作成

イ 教職員の取組

- ・校内研修会（視察報告・協議会報告等）の実施
- ・E S Dに関わる公開授業，研究授業，合評会等の実施
- ・学校評価（自己評価，学校関係者評価等）へのE S D関係項目の導入（検討），評価の実施（実践の検証）
- ・成果と課題を踏まえた次年度全体計画等改善，教育課程編成，指導方法改善等への反映

ウ 生徒の取組

- ・取組のまとめ活動と学習成果発表会等における実践報告（保護者，中学生，関係者，地域住民等への報告）

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

教育課程上の全ての教科・科目，総合的な学習の時間，特別活動，課外活動においてE S Dの理念を踏まえた教育活動を行うこととするが，実施に当たっては，中心的な取組（実践）となる教科・科目，特別活動等を位置付け，それらを牽引役として，他の教科・科目等へつなげ実施可能な部分（単元・授業内容等）からアプローチを行うこととする。また，E S Dを教育活動の主軸とした学校のE S D全体計画（シラバス）等を作成する。

[調査研究の概要]

ア 【中心的な取組】：「世界自然遺産・知床」等，地域をフィールドとしたE S D活動（環境・地域学習）の実践 ～E S Dの理念を踏まえたこれまでの実践の検証，改善・充実～

(ア) 学校設定科目「知床自然概論」（3年次選択科目）※教科：理科

(イ) 特別活動「知床自然体験学習」（1年次学校行事）※関連教科：理科

(ウ) 特別活動「史跡発掘体験学習」（1年次学校行事）※関連教科：地理歴史

(エ) 知床・産業系列等関連科目（課題研究，観光ビジネス，観光英語等）※教科：商業，他

イ 【波及1】：総合学科教育活動・キャリア教育へのE S Dの波及（E S Dに位置付けての実践）～E S Dの理念を踏まえたキャリア教育の推進～

(ア) 学校設定科目「産業社会と人間」（1年次必履修科目）※関連領域：キャリア教育

(イ) 総合的な学習の時間（2・3年次必履修）※関連領域：言語活動・キャリア教育等

(ウ) その他の取組（インターンシップ等）※関連領域：キャリア教育

ウ 【波及2】：各教科・科目，特別活動等へのE S Dの波及 ～E S Dの理念を踏まえた各教科・科目等における指導内容の関連付け（アプローチ）・指導方法等の工夫改善～

(ア) 実践可能な部分（単元・授業内容等）におけるアプローチ

・E S Dの視点に立った協働的学習の導入 ～学力向上，重視する能力・態度の育成～

(イ) 特別活動（生徒会活動，学校行事）における取組の位置付けの明確化

・学校の持続発展につなげる生徒の自主的な活動の喚起（働きかけ）

エ 【波及3】：その他（課外活動等）へのE S Dの波及

(ア) 課外活動（部・同好会活動等）におけるアプローチ

(2) 具体的な研究活動

ア 学校経営・学校運営上の位置付けの明確化

(ア) E S D活動の学校経営シラバスへの明記，位置付けの明確化

(イ) E S D全体構造図等の作成による各教育活動のつながりの明確化

イ E S Dの理念の学校の教育活動全体への反映

(ア) 校内研修会等を活用した進捗状況の交流等，学校全体の研究推進意識の醸成

(イ) E S D全体計画の作成と各教科・科目等における取組のつながりの明確化

ウ 地域の教育力の活用（地域とのつながり），小中学校との連携による取組の充実等

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- 【**中心的な取組**】：「世界自然遺産・知床」等，地域をフィールドとしたE S D活動（環境・地域学習）の実践における取組の検証，改善・充実
 - ・連携先（外部関係機関，外部講師等）との連携の強化
 - ・実践内容（体験先等）の改善，説明内容等の改善・充実
 - ・事前・事後指導の改善（ワークシート等の改善）
 - ・生徒の授業姿勢・態度改善のための工夫（授業方法等の改善，ワークシート等の導入）
 - ・「知床・産業系列」関連科目の円滑な開始（授業内容，指導方法等の工夫）
 - ・他のE S D推進校との連携
 - 【**中心的な取組**】における生徒の変容を把握するための評価（1枚ポートフォリオ）の導入
 - ・特別活動「知床自然体験学習」及び「史跡発掘体験学習」における導入・実施・分析
 - 【**波及1**】：総合学科教育活動・キャリア教育の改善・充実（E S Dに位置付けての実践）
 - ・学校設定科目「産業社会と人間」，総合的な学習の時間等キャリア教育プログラムの前年度までの実践内容の検証，改善・充実
 - ・教員の指導体制の充実，共通認識の醸成
 - ・インターンシップ等キャリア教育関連の連携先（ハローワーク等系）との連携強化
 - 【**波及2**】：各教科・科目，特別活動等へのE S Dの波及
 - ・各教科における観点別評価の実施，E S Dの視点に立った協働的学習の導入
 - ・各教科に学力向上に向けた授業改善の推進，アンケート実施による共通理解の促進
 - ・学校の持続発展につなげる生徒の自主的な活動（生徒会活動）の喚起（いじめの未然防止に係る実践，グローバルな視点に係る実践等）
 - ・教職員の研修意欲の醸成・研修結果の教職員全体でのシェア
 - 【**波及3**】：課外活動等へのE S Dの波及
 - ・課外活動（部・同好会活動等）における生徒の自主的な活動の喚起（上級大会出進部増等）
-
- 【**中心的な取組**】における生徒の変容を把握する評価方法（1枚ポートフォリオ）の導入（再掲）
 - ・特別活動「知床自然体験学習」及び「史跡発掘体験学習」における導入・実施・分析

(2) 課題

- 【**中心的な取組**】に係る連携先（外部関係機関，外部講師等）との連携の一層の強化
 - 【**中心的な取組**】における生徒の変容を把握するための評価（1枚ポートフォリオ）の実施方法の改善，分析方法の確立，分析結果の次年度実践への反映
 - 【**波及1**】における評価方法等の検討
 - 【**波及2**】に係る教職員の意識改革（観点別評価の推進，評価規準の設定，等）
 - 【**波及2**】における生徒の変容を把握する評価方法（1枚ポートフォリオ）の導入の検討
 - 【**波及3**】における生徒の自主的活動を喚起する働きかけの継続・工夫
-
- 【**中心的な取組**】における生徒の変容を把握するための評価（1枚ポートフォリオ）の実施方法の改善，分析方法の確立，分析結果の次年度実践への反映，他の取組（【**波及2**】等）における導入（再掲）

(3) 2年目へ向けての取組

- ア 【**中心的な取組**】に係る連携先（外部関係機関，外部講師等）との連携の一層の強化
- イ 【**中心的な取組**】における生徒の変容を把握する評価方法（1枚ポートフォリオ）の継続実施，分析方法の確立，評価を実施する取組の拡充
- ウ 【**波及1**】における評価方法等の検討（1枚ポートフォリオの導入等）
- エ 【**波及2**】に係る教職員の意識改革（観点別評価の推進，評価規準の設定，等）の継続
- オ 【**波及2**】における生徒の変容を把握する評価方法（1枚ポートフォリオ）の導入
- カ 【**波及3**】における生徒の自主的活動を喚起する方策の検討